

夏目漱石生誕150周年記念特別展示



夏目漱石

～その魅力と周辺の人々～



画：香日ゆら

平成29年

11/3(金)～11/14(火)

せんだいメディアテーク 5階 ギャラリー a

仙台市青葉区春日町2-1

主催：東北大学附属図書館 Tel:022-795-5911(代表)

共催：仙台文学館 / (公財)仙台市市民文化事業団

協力：鎌倉文学館、県立神奈川近代文学館 / (公財)神奈川文学振興会、日本近代文学館

後援：朝日新聞仙台総局、NHK仙台放送局、河北新報社、KHB東日本放送、仙台市教育委員会、仙台放送、TBC東北放送、毎日新聞仙台支局、ミヤギテレビ、読売新聞東北総局

10:00～17:00
入場無料



漱石
生誕150年

漱石文庫

ごあいさつ

平成28年は、夏目漱石没後100年、平成29年は生誕150年。漱石の旧蔵書「漱石文庫」を所蔵する東北大学附属図書館では、昨年の企画展「漱石文庫—文豪が遺した創作の背景」に引き続き、今回は仙台文学館との共催により、「夏目漱石—その魅力と周辺の人々」と題して特別展示を行います。

漱石を慕い、その周りに集った様々な人物へ目を向けることにより、皆さまに「人間・夏目漱石」の魅力を再発見いただけるよう、漱石文庫や仙台文学館の資料から、選りすぐりの品々を展示いたします。

第1部では、漱石文庫より、漱石の日記や手帳、原稿や書簡といったプライベートな資料の数々とともに、当館100周年の際に入手した漱石自筆の『夏目漱石詩 平福百穂画幅』を特別公開いたします。

第2部では、江戸学の宝庫といわれる狩野文庫のコレクターにして、親友の狩野亨吉の紹介をはじめ、恩師ケーベル先生、その他弟子の阿部次郎、小宮豊隆、友人の土井晩翠ら、東北大学にゆかりのある人物との親交について、漫画家・香日ゆら氏の親しみのあるキャラクターによりお楽しみいただきます。

そして、第3部では、仙台文学館による漱石にまつわる文人に関して、文学的なアプローチの展示をご覧ください。

家族の中の漱石、漱石山房に集う弟子達に囲まれた漱石、友人達との漱石など、皆さまが魅力的だと思う夏目漱石とは、どんな人物でしょうか。この機会にぜひ、多くの皆さまに心ゆくまでご観覧いただきたく、ここ仙台にて、ご来場をお待ちいたしております。

東北大学附属図書館長 植木俊哉



漱石文庫とは…

文豪夏目漱石(1867-1916)の旧蔵書3,000冊余りからなるコレクション。英文学を中心とし、漱石による書き入れや傍線のある図書が多く、蔵書全体の3割に及ぶ。また、漱石の日記、ノート、試験問題、草稿・原稿などの断片資料も含まれる。学者の蔵書量としては決して多くはなく、一般的に言われる貴重書・稀覯本も多いとは言えないが、漱石自身が読むために蒐集し、そのほとんどを漱石が手に取り読もうとした図書であることが漱石文庫の特徴である。

東京で創作活動をしていた漱石の蔵書が、この東北の地に伝えられたのは、当館第五代館長で漱石の愛弟子であった小宮豊隆の尽力による。東北大学への搬入は、昭和18年(1943)から開始され、昭和19年に完了した。漱石の自宅である漱石山房があった早稲田南町は、昭和20年の東京大空襲で焼失してしまったが、それより以前に旧蔵書が仙台に移されたことにより、そのまま現代に継承されたのである。

現在、漱石文庫は、東北大学附属図書館の貴重書庫に大切に保管され、漱石研究の重要な資料として多くの研究者に利活用されている。

仙台文学館 (公益財団法人 仙台市市民文化事業団)

郷土ゆかりの文学に関する資料を収集保存するとともに、地域の文学活動の拠点となることをめざして、平成11年3月にオープン。初代館長は、井上ひさし氏。

土井晩翠など仙台・宮城ゆかりの文学者を紹介する常設展の他、随時企画展も開催。1・2階のロビースペースや講習室では、講演会やコンサートなども行う。

